

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 15 日現在

機関番号： 35507

研究種目： 若手研究(B)

研究期間： 2010～2012

課題番号： 22730644

研究課題名（和文） F. フレーベル自然諸学教授論にみる人間陶冶の諸相

研究課題名（英文） Various aspects of the human being cultivation to watch in the F. Froebel' s professor theory of nature studies

研究代表者

松村 納央子 (MATSUMURA NAOKO)

山口学芸大学・教育学部子ども教育学科・准教授

研究者番号： 50341136

研究成果の概要（和文）： 1810 年代ならびに 1820 年代における F. フレーベルの自然哲学の展開は以下の二点を基盤とするものである。

(1) 存在条件としての「一性」(Einheit)と「多様性」(Mannigfaltigkeit)、ないしは普遍性と特殊性についての観察

(2) 事物が事物たる条件としての発生-存続-消滅の過程についての観察

それゆえ生成過程としての連続性が人間陶冶の文脈においても鍵概念となる。この二点は、人間陶冶の文脈においても同様であり、「男性」(Mann)と「女性」(Weib)という実在もまた自然哲学ならびに自然諸学教授において論考の対象となった。

研究成果の概要（英文）： The development of the natural philosophy of F. Froebel in the 1810s and the 1820s assumes following two points a base.

(1) Observation about "one characteristics" (Einheit) and "variety" (Mannigfaltigkeit) as the existence condition or universality and the specialty

(2) Observation about the process of the outbreak - continuation - extinction, that things as the condition as things

That is why the continuity as the generation process becomes the key concept in the context of the human being cultivation. These two points are similar in the context of the human being cultivation. The existence called "man" (Mann) and "woman" (Weib) became a target of the study both in natural philosophy and in professor of natural studies.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 教育学・教育思想

キーワード： F. フレーベル、教授、自然、人間陶冶、一性、多様性、観察、規則的性質

1. 研究開始当初の背景

本邦のフレーベル研究においては一次資料の吟味は進展していない実情がある。付け加えれば、フレーベルについては出版物以外の日記、書簡、草稿等の資料数、その量は膨大である。ドイツにおいても未だに「全集」が出版されていないのには、膨大な資料がドイツ国内に分散されて保管されてきたため、断片的ながらよりフレーベルの実践や思考の軌跡がより鮮明に残されている書簡類や日記、草稿といった資料が眠ったままの状態に留まらざるを得なかったという事情がある。東西ドイツ統一以降の本邦のフレーベル研究に関して、1997年から2007年9月の期間に学会紀要等に掲載された論文（研究ノートを含む）99編を研究代表者が確認した。そのうち、本邦では小原國芳・莊司雅子監訳『フレーベル全集』（全5巻、玉川大学出版部、1977-1981年）の底本であるランゲ編集フレーベル教育著作集(W. Lange(Hrsg.): Friedrich Fröbels gesammelte pädagogische Schriften. 3 Bde. Berlin 1862/63, Faksimiledruck Osnabrück 1966)を参照するものがほとんどであった。本邦では第二次世界大戦後に精神科学的教育学派と目されたホフマン(E. Hoffmann)が中心になってなされた5巻本のフレーベル選集や旧東独側の教育者らの手による3巻本の著作選集も入手可能であるが、参考文献としてまだまだ活用されていないのが現状である。こうしたことも関わっているのか、近年フレーベルに関する論文は徐々に少なくなり、いわゆる研究の停滞期にあるとも言えよう。

また、本邦のフレーベル研究は主として幼児教育に主眼をおくもの、またドイツロマン主義思想にフレーベルを位置づけるものが数多く、科学史的な吟味においては再考の余

地があると研究代表者は考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、F.フレーベル(Fröbel, F. W. A. 1782-1852)の自然哲学・自然諸学教授に関わる論述を手がかりに、自然(事物)と人間形成との諸相を読み解くことである。フレーベルの認識論・自然哲学および教育思想の根幹をなす球体法則観は、先行研究においては1810年代、大学在籍中に確立したとされる(Vgl. Heiland, H.: Die Schulpädagogik Friedrich Fröbels. Hildesheim 1993)。この球体法則観は、認識論であると同時に進化論的な側面も有していることに研究代表者は注目した。全ての事象を球体の生成過程によって解説するというフレーベルの思弁スタイルは、当時のドイツ学術界において異端ではなかった。従って、人間の発達ならびに人類の発展という文脈を有する教育においてフレーベルはその論に基づく実践に着手できたのも、そうした了解があつたのことと思われる。

このフレーベルの人間陶冶に関わる論考を、当時の科学史の知見を踏まえて再考し、改めてその歴史的意義を問い直すこととした。

3. 研究の方法

(1)資料の収集

フレーベルの未刊行資料はドイツの3か所に保存されている。ベルリン旧西独圏にあるベルリン州立図書館プロイセン期文化財手稿部門(Staatsbibliothek zu Berlin, Preußischer Kulturbesitz Handschriftenabteilung)に所蔵されているいわゆる「カイルハウ遺稿」(KN, Keilhauer Nachlass;

Nachl. 186 Friedrich Fröbel)、旧東独圏ではベルリンにある教育史研究図書館(Bibliothek für Bildungsgeschichtliche Forschung)所蔵の、いわゆる「ベルリン遺稿」(BN, Berliner Nachlass; Deutsches Institut für internationale pädagogische Forschung. Bibliothek für bildungsgeschichtliche Forschung [DIPF.BBF]/Archiv Bestand der früheren Akademie der pädagogischen Wissenschaften [Archiv. APWA] Friedrich Fröbel)、およびチューリンゲン州バート・ブランケンブルク フレーベル博物館 (Friedrich-Fröbel-Museum)所蔵のいわゆる「ブランケンブルク遺稿 (BlM, Blankenburger Museum Nachlass)」である。これら遺稿のなかには、ベルリン遺稿のように所蔵カタログが作られていても、それに記載されている資料の所在を確認することができないこともある。本研究ではベルリン遺稿の所蔵を確認、閲覧した。

(2)分析

分析にあたっては、フレーベルがベルリンを拠点に活動していた 1812 年 11 月から 1816 年 4 月までの文献から、自然諸学や認識論に関わる資料をその対象とした。

4. 研究成果

F.フレーベルが教授項目として「自然(Natur)」を重視するに至った過程の一端を明らかとすることを課題とし、未刊行資料「ヴァイス教授の自然諸学に関する哲学的検討」(Über des philosophische Studium des Naturwissenschafts von Prof. Weis. BN 334)の読解につとめた。本資料はフレーベルが師事したベルリン大学結晶学研究室教授

ヴァイス(Weiß, C. S. 1780-1856)の理論に関する記述である。

この論考でフレーベルは自然の事物には(1)存在条件としての「一性 (Einheit)」と「多様性 (Mannigfaltigkeit)」、ないしは普遍性と特殊性についての観察、そして(2)事物が事物たる条件としての発生-存続-消滅の過程についての観察を重視していること、それゆえ生成過程としての連続性が鍵概念となっていることが明らかになった。ちなみに、多様性概念は 19 世紀の幾何学や物理学において「多様体」として論考の対象となったものである。

以上を手がかりに、1810 年代ならびに 1820 年代におけるフレーベルの自然哲学の展開を主題とし、ロマン主義的議論のひとつ「数的論理による原初と永遠性に関する暗喩」を中心とした人間形成に関する思想展開とその歴史的意義について示唆されることは次の通りである。

フレーベルは、人間陶冶の前提として過去-現在-未来という時間軸を設定している。その意味では、時間は常に人間にとっては開放されているものである。言い換えれば、時間は観察可能な事項として設定される。観察者自身が歴史性の上に立っている、あるいは観察者自身が運動の中に存在するが故に、変化する物体の「一性」が可視化される。

「有限のものそれぞれが無限のものの作用概念(Tunbegriff)である」という命題が成立するのは、このような観察者たる人間の位置づけが前提となる。

また、カイルハウ教育舎を拠点とした活動期(1816-1831)においては、これまで「観察」と訳されてきた“Beobachtung”という教授項目は、自然諸学の文脈で解釈するならば「規則的性質」あるいは「観察可能な規則的性質」と訳出するとその教授が目標

とするものがより一層明確化されるであろう。

加えて、ベルリン遺稿中の 1812 年から 1816 年にかけて記述された日記類の読解により、フレーベルが略記していた“M”および“W”が意味する事項が判明した。先行研究において、1812 年の球体法則観に散見される“M. W.”という略記が意味するものは数学 (Matemathik) と推測されてきた。しかし、この研究を通じて、フレーベルの日記における記述から M は男性 (Mann)、W は女性 (Weib) を示すことが判明した (BN 277)。フレーベルの球体法則観は人間の諸力がどのように現出し、展開しうるかをも試論している。そこに男性・女性・婚姻というアナロジーを用い、実在するものの法則性、特に極性による生成と存続、消滅の過程を投影しようとした。このアナロジーから想起されるのは、従来の見解である新プラトン主義の系譜、特にプロテイノスの流出説との親近性、あるいはドイツ神秘主義との親近性とは性質の異なる視座である。

以上を踏まえ、フレーベルの教授論を再考すると、フレーベルの自然教授構想のひとつ「植物学構想」(BN 202) とリンネ植物学に展開されている「婚姻」という概念との相似性が浮上する。リンネ植物学における「婚姻」とは花の開花を指す。そして、開花時の雌しべと雌しべの様態によって植物分類をなした。フレーベルが 1828 年に記した「植物学構想」ではリンネ植物学そのものを教授することが前提とされた。フレーベルの植物学構想では観察によって植物の「多様性」を記述し、吟味する。このときに、男性と女性、そして婚姻という現象とアナロジーとによって事物の性質を把握することとなる。この文脈においても、“Beobachtung”という術語が用いられるが、その語用には、単なる観察に

留まらず、植物の現象を数的に解析することによってその規則性を見いだすことに焦点化されるという含意がみとめられよう。これは後年のフレーベルの論述に見られる「象徴としての数」の基礎をなすものと思われる。連続性とはモノや感覚の連続、ないしは徐々に変化することを示す用語である。また数学の用語では (有理数と無理数とを合わせた) 全ての実数の「連続体」を指す。また生態学において、特に植生群集は様々な集個体群の重なりによって成立しており、環境傾度に沿って連続的に移行するという「群集連続 (説)」を指す。このような学術用語の受容と使用から、フレーベル自身の人間形成の考察の可能性が高まったものと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 0 件)

〔学会発表〕 (計 2 件)

松村納央子 : 1820 年代 F. フレーベル自然諸学にみる「観察」の位相、日本教育学会第 69 回大会一般研究発表【一般 A-1】教育理論・思想・哲学 1 (於 広島大学) 2010. 8. 21.

松村納央子 : F. フレーベルの自然哲学理解、日本ペスタロッチー・フレーベル大会第 29 回大会一般研究発表、(於 常盤学園大学) 2011. 9. 11.

〔図書〕 (計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

松村 納央子 (MATSUMURA NAOKO)
美作大学・生活科学部児童学科・専任講師
(2010)
→山口学芸大学・教育学部子ども教育学
科・准教授(2011-2012)
研究者番号： 50341136

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし